

全ての原子力発電所の閉鎖へ向けての団結と積極的な抗議 — 今 す ぐ に 、 そ し て 世 界 中 へ ！

地震、津波、そして原子力災害が恐るべき勢いで日本の人々を襲いました。我々は彼らに深い同情と限りない連帯を表明します。水害だけでも何万人も人が命を失い、何十万人ものが非難生活を送り、何百万人の人たちが電気、水道がない生活を余儀なくされています。世界中の人々が悲しみ、驚愕、そして怒りに包まれています。今重要な団結は全ての原子力発電所の閉鎖に向けた—今すぐ、そして世界中で—積極的な抗議、断固とした戦いなのです。

現在、最悪の事態が起こる危険があります。福島原発の第一原子炉及び第三原子炉において水素爆発が起こり、第二原子炉の燃料棒は冷却水がなくなり、東海など他の原子炉では冷却装置が作動しなくなりました。放射性セシウム、ヨードの放出は、炉心溶融がすでに起こっている明らかな証拠です。これによって、空気中への爆発するか、もしくは地中へ焼きつき、壊滅的な地下水汚染を起こし、遅かれ早かれ海水、地面、食物連鎖までを汚染し、必然的に大量の高放射性物質が環境に放出されます。また、福島原発の第三原子炉はプルトニウムを含んだ混合酸化物燃料によって稼動しています。これはもっとも毒性が強く、命取りになり、核兵器にもなる物質なのです。いま、人類の歴史の中で最も深刻な核災害が起こる寸前なのです—そこで最も苦しむのはすでに広島と長崎への最初の原子爆弾投下によって致命的な傷を負った国民なのです！何百万人もの命を危険にさらす非人間的な日本政府と原発経営会社に対して世界中で非難が高まっています。日本政府は未だに顔と手を石鹸で洗浄するといった、侮った宣伝攻勢で大衆や世界の人々をなだめ、欺こうとしています。アンネ・ヴィルに対して日本大使は放射線量はまだレントゲンの放射線量と同じ位だ、などというたわごとを言ったのです！まず大きな地震のリスクにもかかわらず、より良い技術知識に逆らって大体的な原子力政策によって原子力災害のリスクを負い、現在は中立機関の測量を阻害し、国際救助の受け入れを遅らせたり、今日に至っても有能なNGOの要請、受け入れをしないという様に、必要最低限の緊急対策をも妨げているのです。表向きにはパニックを避けるために現在行われている処置—広域大量避難—は最小に抑えられています。これは犯罪的としか言い様がありません。

ドイツ連邦政府は冷酷にも老朽化した、危険な原子力発電所の運営期間を危険を十分承知で、また国民の圧倒的多数の意思に反して決定してしまいました。昨年秋の原子力発電所の運営期間の延長の際、内々の取引により安全基準は更に引き下げられ、古い原子炉—基に対する修繕費はたった500万ユーロに制限されてしまいました。過去数年にビブリスとネッカーヴェストハイムの老朽化した原子力発電所だけでも何百という故障がありました。現在賞賛されているドイツ国内の原子力発電所の安全点検や危機マネジメントのなんと笑止なことでしょう。これらは第一に自分達が行っている原子力政策への異議申し立て、抗議を阻止するためとその規模を小さくするために行われているのです。殺人的な原子力政策と戦う人々は攻撃され、中傷されるのです。以前からこれらの危機に言及していた、と主張する人々は“緊急事態の党政策的有効利用”を行い、3月14日にレットゲン環境大臣を扇動しました。そうです、戦闘的な環境保護運動です。マルクス・レーニン主義者が何年もかけて致命的な原子力発電所の危険を証明し、また替わりの100パーセント再生可能エネルギーを検証してきました。それに対して国際的専売企業と連邦政府は文字通り、緊急事態の有効利用を行い、厳として原子力政策を推し進めてきました。そのさい、安全な日本の原子力発電所は彼らの輪蔵のような論点でした。また原子力発電所の運営期間延長の取り消しの後の（選挙戦）要求や、原子力廃止の隠れ蓑の下に隠れて原子力発電所運

営期間の延長を可能にした昔の SPD/緑の党の古いインチキ政策への帰還も行き詰っています。これはエコロジカルな帝国主義なのです。エコロジカルという言葉に隠れて帝国主義的な原子力政策を行っているのです。全ての原子力発電所は運営者の資金で経閉鎖されなければなりません！我々はドイツ国内に十分なエネルギー容量をもっており、原子力発電所が閉鎖になっても電球ひとつ消えることはありません。2003 年の猛暑で水位が下がったため、冷却のために全ての原子力発電所が停止したときにも何も興りませんでした。動機はただひとつ、原子力発電所の減価償却がもたらす最大収益なのです。ドイツにおいて原子力発電所の長い運営期間はエネルギー会社に毎年 80 億から 100 億ユーロの追加利益 (!) をもたらすのです。それに応じて RWE もドイツ国内最大の原子力発電所運営会社の一つとして、現在の原子力政策に対する考慮の必要性を感じていません。これらの人々は決して論争では納得させられません！たとえばジーマスはフランスとロシアの原子力企業と共に原子力発電、ウランの世界マーケットの 3 分の 1、2030 年までに全部で約 400 基の原子力発電所を占有しようとしています。中国政府は多くの新しい原子力発電所をもって自国の原子力政策を一貫して推し進めています。

これらすべての事項が示すことは：首尾一貫して原子力災害と戦うには悪の根源へ行き、資本主義と戦うということです！帝国主義は何者をも考慮しません。帝国主義が倒されるか、それとも人類の生活が世界的な環境災害にあい、再起不能に破壊されるか、どちらかです。人類の統合、自然が中心にあり、利益が中心ではない真の社会主義を求める世界的な戦いの中の新しい息吹こそが、その存在の大半は経済的、政治的、環境危機にあるシステムに対する正しい答えなのです。世界が燃え尽きる前に、我々は世界を彼らの手から取り戻すのです！

週末にはドイツ各地で抗議と団結の動きがあり、その中でも（計画済み）シュツットガルトとネッカーヴェストハイムの間で約 6 万人が集まりました。今日月曜日には今のところ 200 以上の地域活動が予告され、どんどん増えています。日本の方々是非常に複雑な状況下における生存への戦いにかかわらず、原子力独占企業、原子力発電所経営企業、彼らを助長し、援助する政府との戦いの頂点に立つという役割があります。ドイツでは今政府と企業の原子力プログラムを打倒する時なのです。そのために我々は大衆と ICOR によって組織された革命家達と結束するのです。団結と積極的な抵抗が今の名分なのです！世界中の原子力発電所をを経営者の資金で閉鎖させましょう！今すぐに制限なく 100 パーセント環境にやさしいエネルギーへの転換を！環境を拝金主義から救うために積極的に立ち上がりましょう！世界的な環境災害に対抗する国際的な抗議戦線の構築を！真の社会主義のための戦いにおける新しい発展へ向かって前進を！世界的な社会主義革命への前進を！世界が燃え尽きる前に資本主義者の手から世界を奪い取りましょう！

MLPD 中央委員会: Schmalhorststr. 1c • D-45899 Gelsenkirchen, Deutschland

+49 49 209 951940 • Fax: ++49 209 9519460 • E-Mail: info@mlpd.de